きっぷの楽しさ

1E　城戸 康太

↓交通系ICカードの例。一番上には引退した車両のパスケースの中に、もうすぐ引退するペンギンがいる。



みなさんは「きっぷ」を使ったことはあるだろうか？近年は交通系ICカードやクレカタッチ乗車などの乗車方法が普及して、紙の切符を使う人は非常に少なくなっただろう。しかし、きっぷというものはとてもおもしろいものである。そこで、私が今まで使ったきっぷを元にきっぷの楽しさ、面白さを述べられたらいいなと思う。

1 きっぷの種類

きっぷにはさまざまな種類がある。例として、乗車券、特急券、グリーン券、寝台券、コンパートメント券などだ(その中でもさまざまな種類がある)。それぞれどのようなものか解説していこう。

①乗車券

乗車券とは、電車に乗るために最低限必要なものである。乗車券にもさまざまな種類があり、普通乗車券、往復乗車券、連続乗車券、団体乗車券などだ(往復・連続乗車券は2026年3月に廃止済み)。これらの違いはなんだろう？

1.片道乗車券

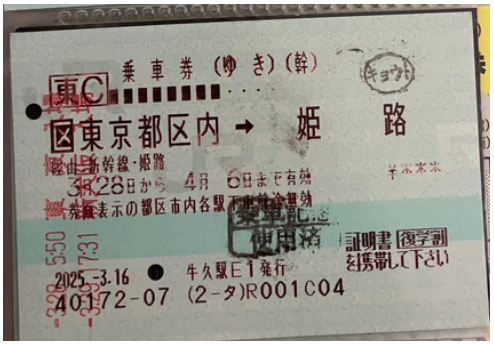
みなさんがもし乗車券を買おうとしたら多分これを買うことが一番多いだろう。一番簡単で、A駅からB駅を経由してC駅に到着する、というものだ。左下にあるのは、土浦から荒川沖までの至って普通の片道乗車券である。

2.往復乗車券（廃止済み）

行きと帰りのきっぷがセットになったもの、と考えればよい。ではなぜこのようなものがあったのか？目的としては、往復割引や帰りの出発駅が出札窓口・券売機などがない駅のために事前確保ができる、学割証、ジパング割などの回数を節約できる、有効期間が通算のため、ゆきとかえり、どちらかの期間を長くできる＝（途中下車をたくさんできる）などであるだろう。







↑往復乗車券の例

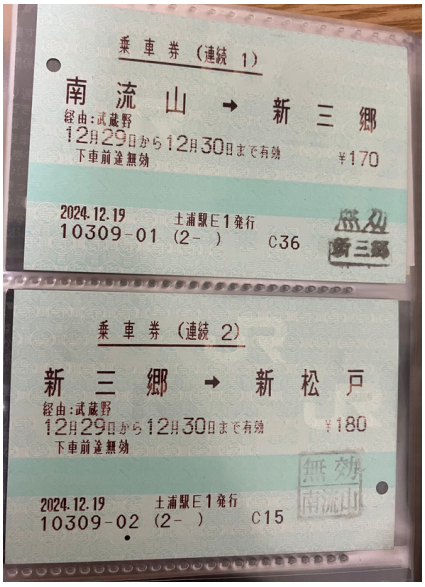
ここでこのきっぷに書かれている「証明書を携帯してください　復学割」という記述はなんだろうか？これは、JRのきっぷの割引の制度である往復割引（廃止済み）と学生割引が両方適用されたものである。(このきっぷは私が家族旅行で使用した際のものだが、実は私が行先に姫路を推したのは、500系新幹線に乗るためと、この「復学割」の印章の入ったきっぷを廃止前にほしかったからである。←すごくどうでもいい。あ、500系のお子様用運転席はほとんど人がいなかったのでたのしませていただきました)



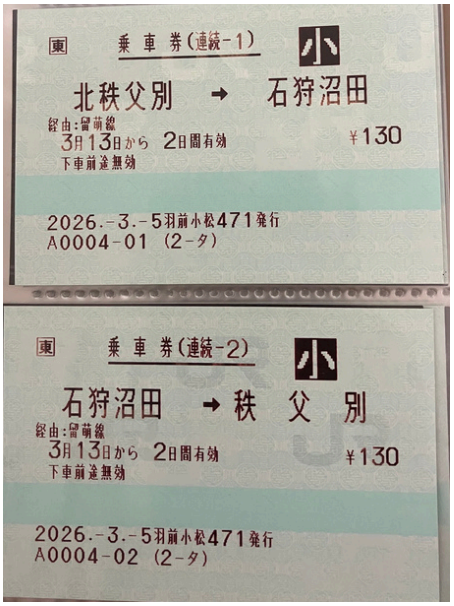
姫路にいたコナンラッピングのスーパーはくと（本文と関係はない）





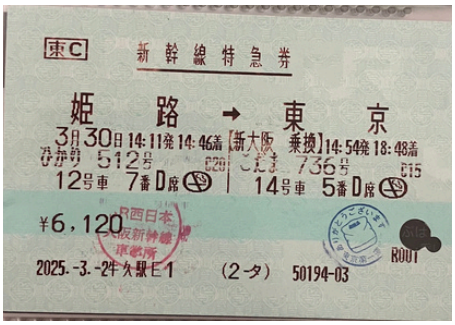


３.連続乗車券（廃止済み）
実は私も中３くらいになるまでは意味をあまり理解していなかった、連続乗車券。写真左は、連続乗車券とは何かを理解でき、うれしくなって購入したもので、写真右は、旅行先で当時もうすぐ廃止になる路線（留萌本線）の区間のきっぷをもうすぐ廃止になる連続乗車券で、記念に購入したものである。連続乗車券の意義としては、往復乗車券で述べたものの往復割引について以外ほぼ同じである（連続乗車券にしても特に割引はない）

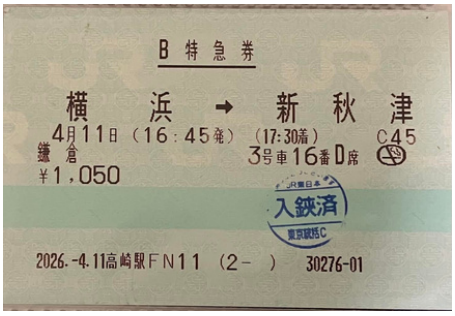


②特別急行券・新幹線特別急行券

乗車券のほかに、特急列車、新幹線などへ乗車するとき指定席特急券は、乗り遅れた場合でも後続列車の自由席に乗車できる。また、乗車券と同じく、乗車距離によって料金が変わる。２時間以上の遅延や運休などの時に特急券が払い戻されるなどの救済措置がある。また、他にも、「急乗承」や「事故列変」などのさまざまな制度があるので、それらを事前に調べておき、トラブルが発生したら落ち着いて駅員さんに相談することをおすすめする。



写真上の特急券は前述した姫路への旅行の帰りに使用したものである。実は、新幹線は改札を出ず、方向が同じなら何度も席・列車を変えることができる。この特急券はこの制度を活用している。また、Wonderful Dreams Shinkansenというディズニーのラッピング新幹線に乗るためにこだまを指定したが、東京まで４時間半もかかってとても疲れてしまったからたぶん今後東京新大阪間をこだまで移動することはないだろう。



写真下の特急券は臨時特急である鎌倉号に乗ったときのものである。特に書くことはないが、在来線の特急券の写真も出した方がいいと思いだしただけである。E653系を首都圏で乗るのは斬新だった。（しらゆきに乗ったことはあるが、いなほ編成に乗るのは初めてである。）

③特別車両券

通称グリーン券などと呼ばれるものである。普通車よりさらに良いグリーン車に乗ることができる。DXグリーン券、グランクラス券などもこの枠に入る（値段は普通のグリーン車より高い）。写真は普通列車のグリーン券である。数年前に制度が変わったため、「ホリデー」のような印字はされなくなった。学生からするとあまりなじみのない存在である。

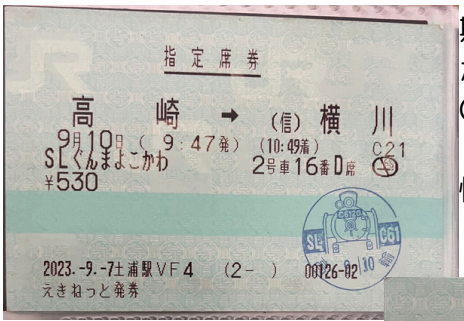


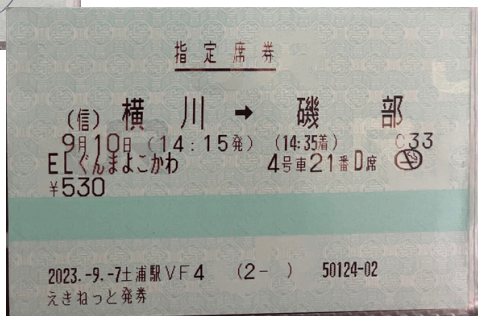
④寝台券・コンパートメント券

名前の通り、寝台やコンパートメントを使用するときに必要なきっぷ。現在定期運行されている寝台列車はサンライズ出雲・瀬戸号のみである。使用したことがないため、割愛する。

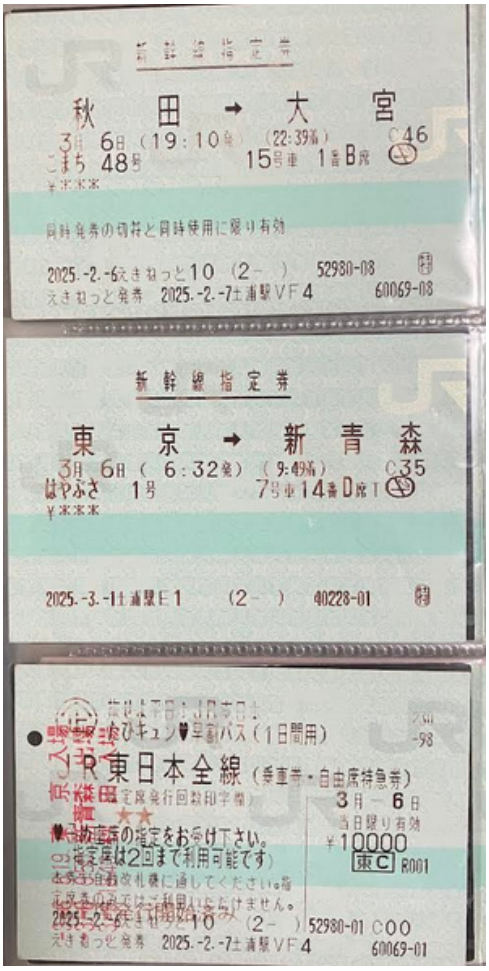
⑤座席指定券

主にJR東日本の乗ってたのしい列車へ乗るときなどに利用する。それ以外の快速列車（マリンライナーや快速あいづ」などへ乗るときにも使う。写真は





ＳＬ・ＥＬぐんまよこかわのものである。最近、ＪＲ東日本では電気機関車が全廃されてしまったため、もうこの列車が運転されることはないだろう。ただし、現在はＧＶという事業用車両けん引の列車に乗れるＧＶぐんまというものができた。

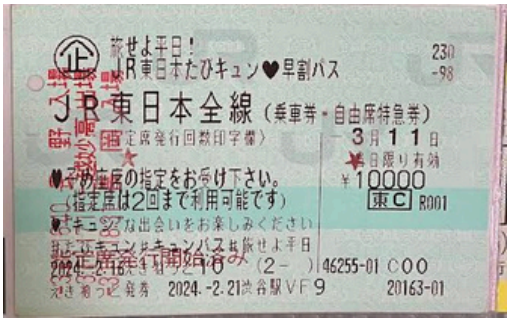


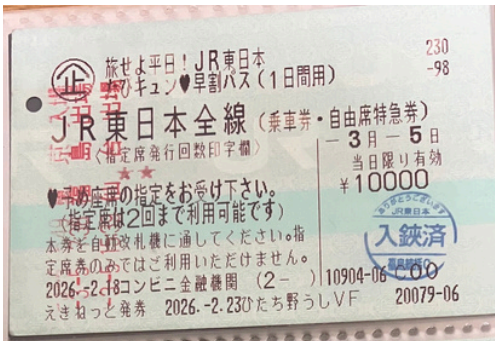
⑥特別企画乗車券

鉄道会社が企画した基本的に安価となる、通称、お得なきっぷである。制約はそれぞれで異なるため、各自で確認していただきたい。以下、私がおすすめする？（有名な）特別企画乗車券を挙げておこう

・キュンパス（JR東日本たびキュン♥早割パス）
・ときわ路パス
・休日おでかけパス
・青春18きっぷ
・北海道＆東日本パス

など私が使ったことがないものが多いのと、地域によってさまざまなものがあるから、ぜひJRのサイトなどで調べていただきたい。

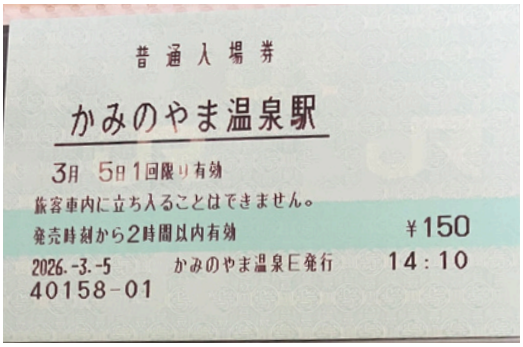




画像はすべて、一番上に挙げた「キュンパス」である。発売を開始してから3年間毎年使わせていただいた。とてもよいきっぷだと思う。左に大きく出ている2025年の日付は３/６、そう新幹線が分離してしまった日だ。そのせいではやぶさとこまちの連結が中止になり、こまちが盛岡どまりになった。盛岡駅では、のりかえの自動改札機が停止され、駅員がメガホンでゆっくりでよいと放送していたが、はやぶさ４８号へ乗り換える人がみんな猛ダッシュしており、まるで運動会のようだった。

⑦入場券

お見送りに行く、エキナカ施設を使う、電車を見る、など目的は様々だが、駅へ入ることができるきっぷである。制限時間は2時間。また、旅客車内へは入ることができない。



2.どこを見てるの？

私はきっぷが好きである。では私がきっぷを見るときどのようなところに着目しているかについてを第二節では述べたい。

①様式

きっぷといっても様式はさまざまである。今まで挙げてきた写真にはほとんどがマルス券、普通列車グリーン券のみエドモンソン券である。一番一般的なのはこのふたつで、私はマルス券の方が好きである。これ以外にも、車内補充券、出札補充券、改札補充券、料金補充券などさまざまな様式があるが、これらは車掌さんの端末から発売される車内補充券を除きあまり一般的なものではない。現在私は料金補充券は購入したことがあるため他のもあつめたいなと考えている。

②発行端末・発行箇所

ここからは基本的にマルス券にしぼった話をする。マルス券で私が区間や日付などあたりまえに見るものを除いてまず見るのは発行箇所である。これは日付の右側（かみのやま温泉駅の入場券ならかみのやま温泉Ｅ１）のように見ることができる。マルス券を発行できる窓口・券売機は現在主に９種類ある（分類が主観的なのでなぜここととここは分けないのか！などはつっこまないでください）

１.MV50

全国に1044駅(2026.5.4現在)と、たぶん一番設置数が多い端末だ。MV50といってもなんだそれは、と思う人が大半であろう。MV50とは、指定席券売機（みどりの券売機）とよばれる顧客操作型マルスの一種である。たぶんこれが指定席券売機の中でいちばんオーソドックスだろう。

JR北海道、JR東海、JR四国では○○駅ＭＶｘ、JR東日本では○○駅ＶＦｘ、JR西日本では○○駅ＭＫｘ、JR九州では○○駅ＭＶ５０と表される。つまり、SL,ELぐんまよこかわは土浦駅の指定席券売機（MV50）で買ったんだな、とわかってしまう。

２.MV50C

MV50とほぼ同じだが、決済方法がキャッシュレス＝現金不可な端末である。実は土浦駅に一台ある。あまり特筆する点はないが、現金決済をするつもりなのに、この端末を操作してしまうと、これをキャンセルし、もう一回現金対応＝MV50orMXV10の端末で同じことを入力しなければいけなくなり、時間がもったいなくなるので気を付けよう。

3.MV60

MV50Cと似ている、キャッシュレスオンリーの端末だが、端末名や仕様などが異なる。よく、えきねとやE5489などの受け取り機として使われる。

4.MXV10

昨年でた、新しいモデルの指定席券売機である。UIが変わって、画面も縦方向に大きくなり、操作性が上がった。UIは既存の端末（MV50など）も新しいものに変わった。私は触ったことはあるが、まだきっぷを発券したことがないので、ぜひはやくなにかきっぷを発券してみたいと考えている。

5.ME4

JR東日本の子会社が開発したため、JR東日本の駅のみどりの窓口で使われている。印字に赤みがあるものが多い。JR東日本の子会社ではたぶん新機種の開発は行わないらしく、全国と共通なMR52Nにたくさん置き換えられている。つまり、前にあげていた写真では、かみのやま温泉駅、土浦駅、荒川沖駅、牛久駅のME4で発行されたきっぷだとわかる。（土浦駅はすでにMR52Nになっている。）

6.MR52

JR東日本の首都圏本部とそれ以外の会社で主に使われていた機種。現在はME4とともに、MR52Nに置き換えられている途中である。

7.MR52N

前述された通り、ME4とMR52を置き換えている新しいマルス端末である。今後もっと増えていくだろう。あと、私は１年前くらい前までは指定席券売機が好きだったが、最近はみどりの窓口巡りにはまっている。理由はわからないが、やっていてとても楽しいと思う。

8.MR51

一般的なJRの駅でなく、旅行会社や一部私鉄の駅に置かれている見たことがないからよくわからない。

9.POS端末

みどりの窓口がある駅、みどりの窓口はないが、簡易委託の駅として運営されている一部の駅に設置されている。これまでのものとは違い、端末で指定席を予約・購入することはできない。首都圏の大きな駅で触れることはほぼないが、田舎の小さな駅で、みどりの窓口と書かれていないが、駅できっぷの発売をしているところなどだと、POS端末で発行されたきっぷがでてくるかもしれない。

これ以外でも見ているところ・言いたいことはたくさんあるが、これくらいにしておく。

３結局何がしたいの

たぶんいつかはきっぷがなくなるかもしれない（シンガポールではすでにVisaタッチと、EZ-ink cardとSingapore tourist passというほぼ交通系ICカードのようなものしかなかったはず）。たとえば、つくばエクスプレスでは今年10月から磁気乗車券を廃止しQRコード乗車券となるが、これはチケットレスへの第一歩なのかもしれない。しかし、紙のきっぷというものは、持ち帰れば物として残るものであり、きっぷを見たら何をした時のかを思い出せてしまう。今の環境を幸せに思い、たくさんきっぷを収集して将来に残し、これを記録していきたい。そのために、たくさんきっぷを買って、そしてたくさん旅行をしたいと思った。話が途中たくさんそれてしまって、読みづらい文章だったかもしれませんが、最後まで読んでくださりありがとうございました。

★注意★情報には細心の注意を払っていますが、間違えている可能性があります。もしそうでも私は一切責任を負えないので、自分でＪＲなどの信頼できるサイトなどで正しい情報を調べてください。

参考文献

ＪＴＢ小さな時刻表2025年　季刊　春号
マルス設置駅まとめ＃２(さくら)　https://jr-mars.dyndns.org/
ＪＲ東日本　https://www.jreast.co.jp/